

「にぎやかな仏さまたち」

本山参禅室長 花和浩明^{こうめい}

5月下旬、本山で「鶴見大学新入生本山参禅会」が実施されました。これは、鶴見大学に入学された新入生が、本山で一日修行体験をする行持です。毎年実施されるもので、年を重ねてすでに伝統行持となっています。

ここ2年は、コロナ禍によって中止となっ^{しゅりょう}てしまい、3年ぶりの実施となりました。いつも坐禅は一般参禅者の坐禅堂である衆寮^{しゅりょう}で実施されますが、今回は、感染対策もあつて本山で一番大きな伽藍^{がらん}である大祖堂^{だいそどう}で行いました。

私も、大祖堂で坐禅をするのは初めての経験でした。その日は保育科の皆さんと一緒に坐禅をしました。たいへん良い天気^{しゅりょう}で、新緑を^{しゅりょう}通ってくる風がとても心地よく、堂内^{しゅりょう}が清らかな空気に包まれているか^{しゅりょう}のようでした。

そんな中、本山に遊びに来ていた園児たちのにぎやかな声^{しゅりょう}が聞こえてきました。私にとっては聞きなれた声^{しゅりょう}で、衆寮^{しゅりょう}で坐禅会をしているときによく聞こえてきます。時々とても気になることがあります。「坐禅会^{しゅりょう}にきてくれた人たちが、子供たちの声^{しゅりょう}に気をとられて坐禅に集中できないのでは」そう思いはじめると、ますます気になってきてしまいます。

しかし、大祖堂で坐禅^{しゅりょう}をしていたこの日は、まったく気になることはありませんでした。爽やかな新緑の風^{しゅりょう}がそう思わせてくれたのか、大祖堂の懐の大きさがそうさせたのか、子供たちの声^{しゅりょう}がまるで「にぎやかな仏さまたちの声^{しゅりょう}」に聞こえてきたのです。

私は毎月、本山の担当者として保育園と幼稚園に坐禅指導^{しゅりょう}に出向いています。いつも感動するのは子供たちの坐禅の姿^{しゅりょう}です。両足を組んで静かに坐っている姿は、小さな仏さまがそこにいるか^{しゅりょう}のようです。きっと幼い子供ならではの柔軟性と無垢な心^{しゅりょう}が、小さな体を仏さまの姿^{しゅりょう}にしてくれるのでしょう。

その日に坐禅^{しゅりょう}をしていた保育科の新入生たちは、やがてその小さな仏さまたちのお世話をするかもしれない方たちです。

「仏さまの姿^{しゅりょう}をいつまでも守ってくださいね」そんな想いがあったからこそ、外から聞こえる子供たちの声^{しゅりょう}が、「仏さまの声^{しゅりょう}」に聞こえたのかもしれない。